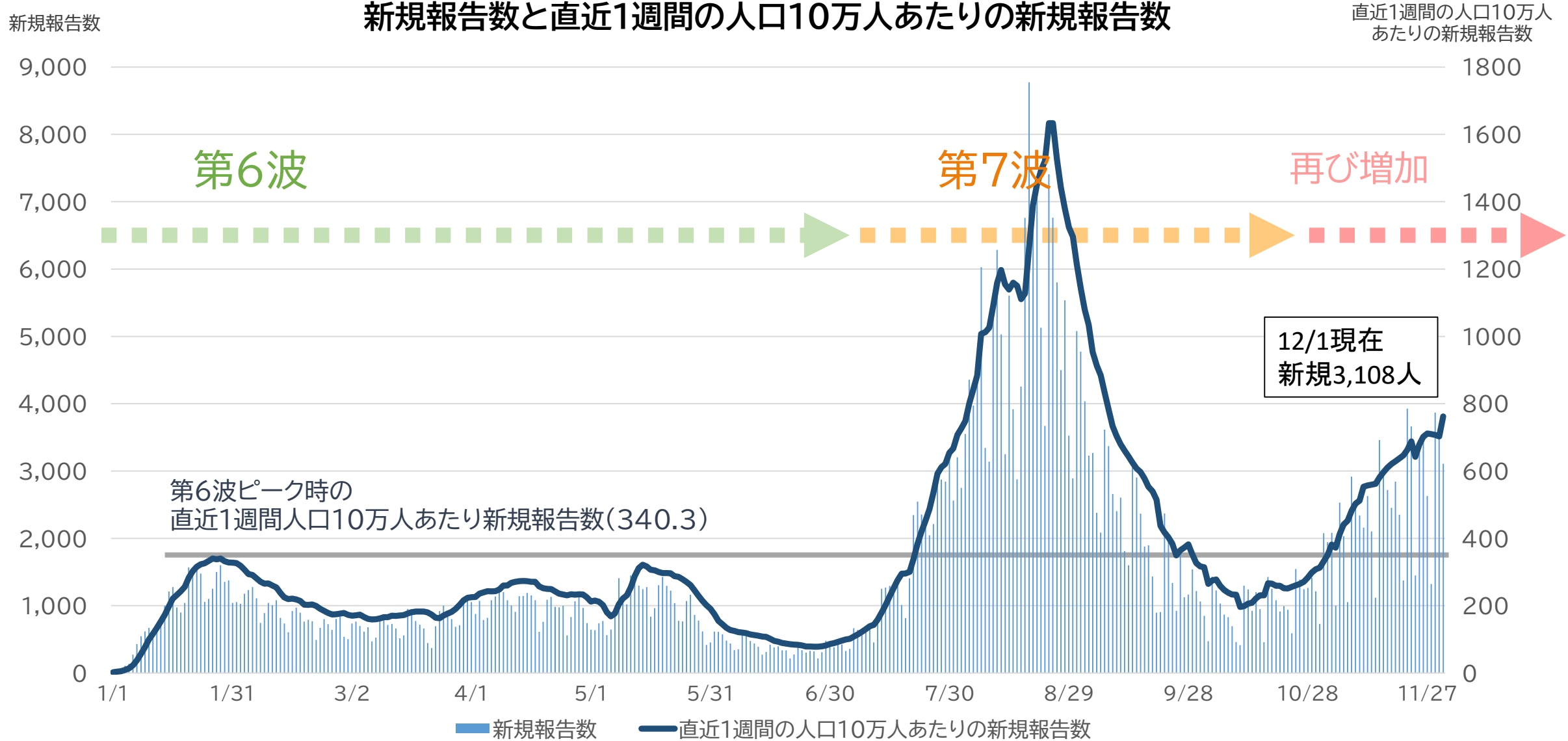


新型コロナウイルス感染症における 県対処方針の改正等について

令和4年12月2日

1. 感染状況とシミュレーション
2. 広島県の対応
 - (1) 対処方針の改正
 - (2) 季節性インフルエンザとの同時流行への備え
3. メッセージ

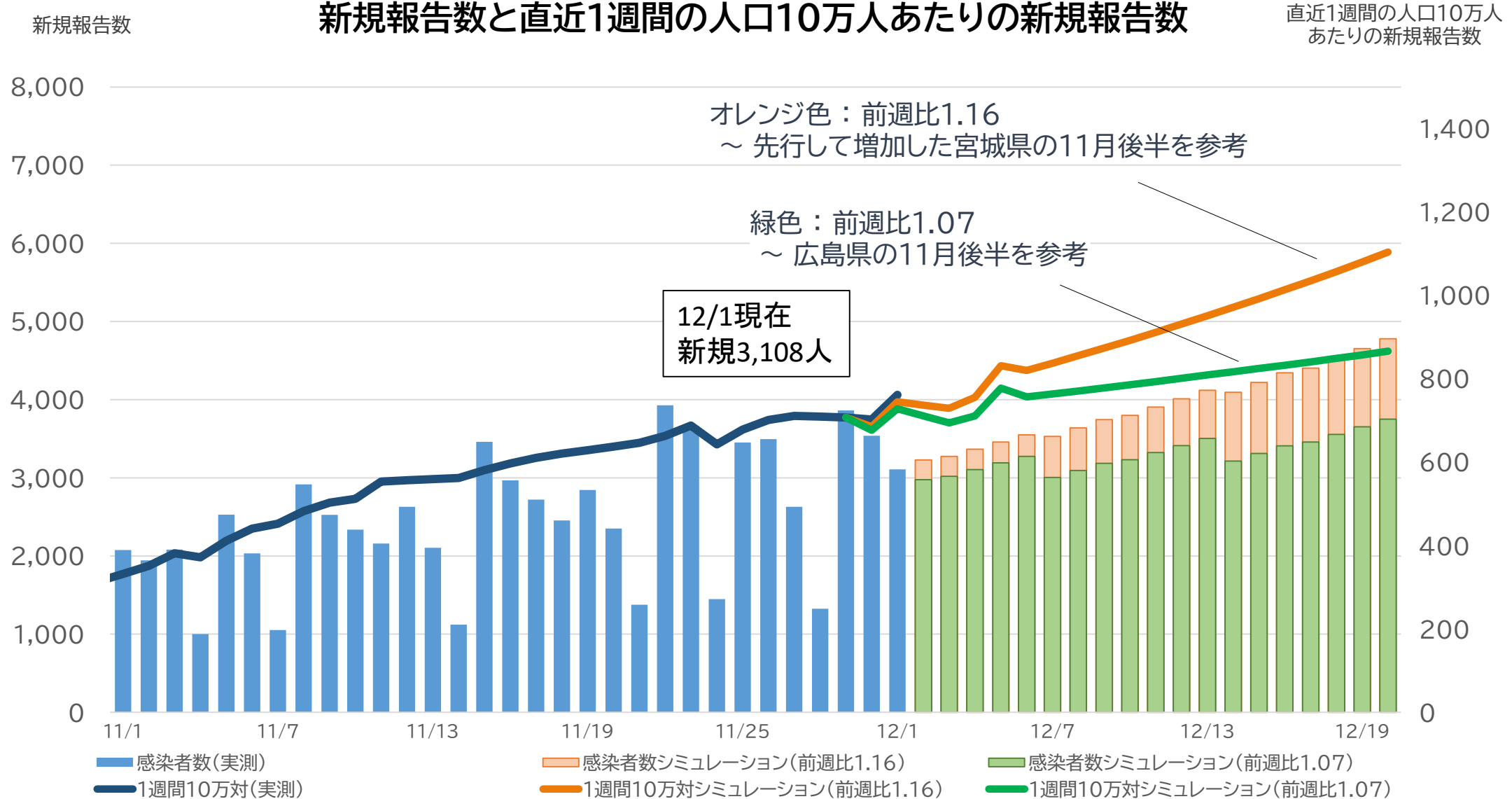
本県の感染状況



感染は増加が続いている

感染状況シミュレーション

※シミュレーションは11/30実施



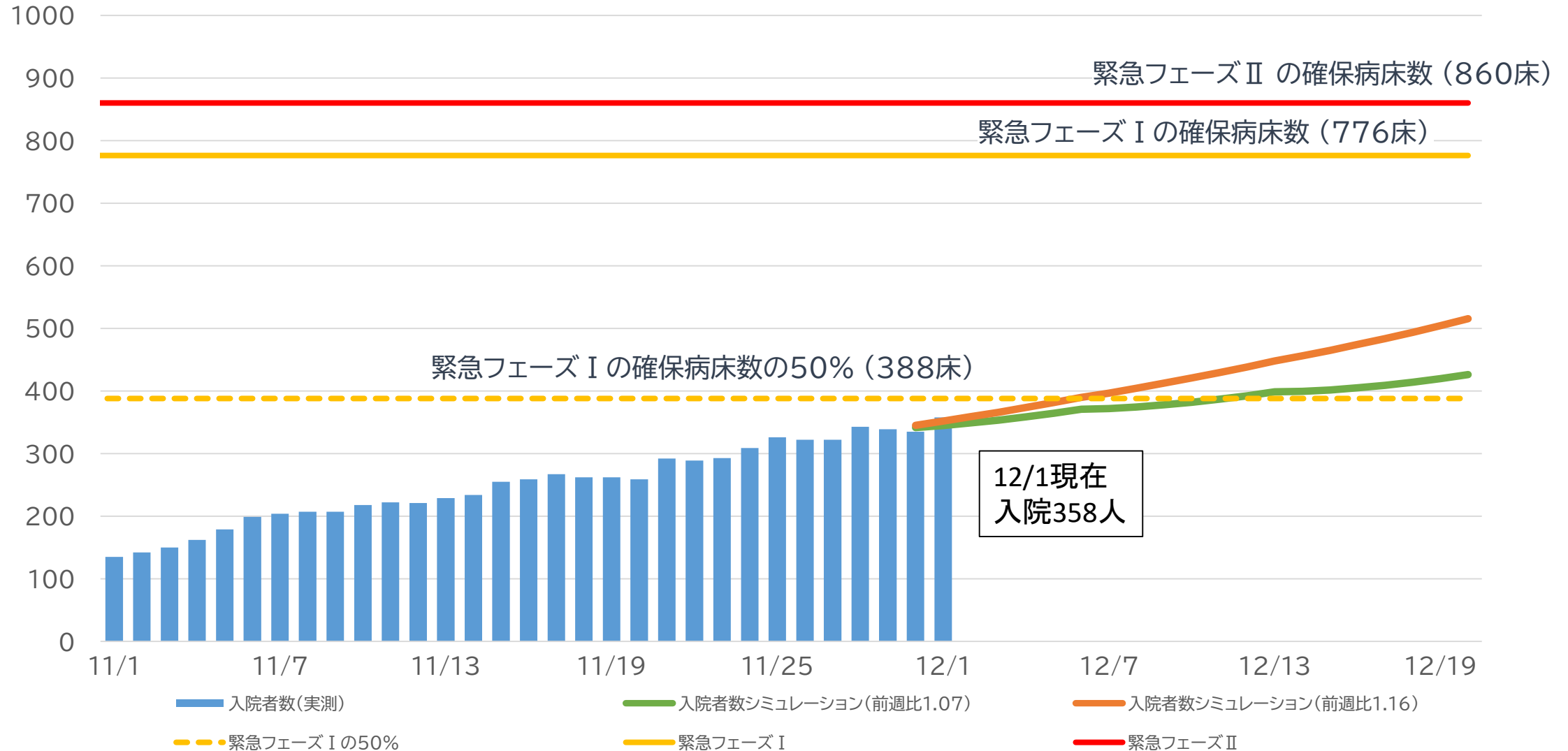
人との接触機会が増える季節。感染増加が続く可能性

入院患者数シミュレーション

※シミュレーションは11/30実施

入院患者数

※確保病床数は12/1現在の数値



入院患者も増加の恐れ。12/1から緊急フェーズ I に移行して対応

対処方針の改正（令和4年12月2日）

◆ 本県の基本方針

これまでの感染拡大を超える感染者数が生じて、季節性インフルエンザと同時流行しても、オミクロン株と同程度の感染力・病原性の変異株による感染拡大であれば、

- ・ **新たな行動制限は行わず、社会経済活動を維持**
- ・ **高齢者等を守ることに重点**を置いて感染防止策を講じる
- ・ **同時流行も想定した外来等の保健医療体制を準備**

という国の考え方を踏まえ、感染の拡大をできるだけ抑えるための必要な対策を講じて、医療で受け止めながら、社会経済活動を維持することを基本方針とする。

◆ オミクロン株対応の新レベル分類に基づく対応

保健医療の負荷の状況、社会経済活動の状況、感染状況等を踏まえた

4段階の感染レベル分類と対策を設定

対処方針の改正～オミクロン株に対応した新たな感染レベル分類に基づく対応～

【新レベル分類の概要】

感染レベルは、設定した指標で機械的に判断するのではなく、保健医療の負荷の状況、社会経済活動の状況、感染状況等を踏まえ、総合的に判断する。

| | レベル1 感染小康期 | レベル2 感染拡大初期 | レベル3 医療負荷増大期 | レベル4(避けたいレベル) 医療機能不全期 |
|------------|----------------------|---|--|--|
| 保健医療の負荷の状況 | ・外来医療, 入院医療とも負荷は小さい | ・発熱外来の患者が増加, 負荷が高まり始める ・救急外来も増加 ・病床使用率, 医療従事者の欠勤者数が上昇 | ・重症化リスクの高い方がすぐに受診できない ・救急搬送困難事例が急増 ・入院患者の増加, 医療従事者の多数の欠勤により, 入院医療の負荷が高まる | ・一般外来にも患者が殺到する ・外来医療全体がひっ迫し, 機能不全 ・中等症以上の患者が著しく増加 ・入院できずに自宅や施設療養中に死亡する者が多数発生 ・通常医療を大きく制限 |
| 指標 | 「病床使用率※」: 概ね0～30% | 「病床使用率」: 概ね30～50% | 「病床使用率」・「重症病床使用率」: 概ね50%以上 | 「病床使用率」・「重症病床使用率」: 概ね80%超 |
| 社会経済活動の状況 | — | 業務に支障が生じる事業者が出始める | 業務継続が困難になる事業者が多数発生 | 社会インフラの維持にも支障が生じる可能性 |
| 感染状況 | 感染者は低位で推移 | 感染者が急速に増え始める又は増加が継続 | 医療負荷を増大させるような感染者数 | 第7波を超える膨大な感染者数 |

※病床使用率は最大確保病床(緊急フェーズⅡ(860床))をベースとして算出

現在 広島県は 「レベル2」 と判断 (参考:病床使用率 約42%)

対処方針の改正～オミクロン株に対応した新たな感染レベル分類に基づく対応～

医療ひっ迫防止対策強化宣言

感染拡大により、保健医療の負荷が増大し、社会経済活動にも支障が出ている段階(レベル3)にあると認められる場合、この宣言を行い、県民や事業者等に対し、医療体制の機能維持・確保等に係る協力要請・呼びかけを実施する。

※医療ひっ迫防止対策強化宣言については、レベル3で機械的に実施するものではなく、保健医療の負荷の状況等を十分に勘案し、実施を判断する。また、一部地域に限ることや別の名称を用いることもあり得る。

【協力要請・呼びかけの例】

- ✓ 重症化リスクが低い人は、発熱外来を受診する前に、自宅で検査キットによるセルフチェックを行い、陽性の場合は陽性者登録センターに登録すること
- ✓ 救急外来及び救急車の利用は、真に必要な場合に限ること
- ✓ 大人数の会食や大規模なイベントへの参加は見合わせることも含めて慎重に検討判断すること

※上記は例示であり、実際の協力要請・呼びかけは、保健医療の負荷の状況等を十分に勘案し、総合的に検討・実施する

対処方針の改正～オミクロン株に対応した新たな感染レベル分類に基づく対応～

医療非常事態宣言

レベル3の段階において、「医療ひっ迫防止対策宣言」に基づく対策を講じても感染拡大が続く場合など、医療が機能不全の状態になる段階(レベル4)になることを回避するため、この宣言を行い、県民等に対し、人との接触機会の低減について、より強力な要請・呼びかけを行う。

※医療非常事態宣言については、レベル3で機械的に実施するものではなく、保健医療の負荷の状況等を十分に勘案し、実施を判断する。
また、一部地域に限ることや別の名称を用いることもあり得る。

【協力要請・呼びかけの例】

- 原則、飲食店や施設の時短・休業は要請しない。学校の授業は継続。
- ✓ 外出・移動は必要不可欠なものに限ること(出勤大幅抑制, 帰省・旅行も自粛)
- ✓ イベントは、延長等を含め慎重に対応すること
- ✓ 部活動の大会や学校行事等は、開催方式の変更を含め慎重に対応すること

※上記は例示であり、実際の協力要請・呼びかけは、保健医療の負荷の状況等を十分に勘案し、総合的に検討・実施する

外来医療体制整備計画

今冬においては、今夏を上回る新型コロナウイルスの感染拡大が生じる可能性がある。加えて、季節性インフルエンザも流行し、より**多数の発熱患者が同時に生じる可能性**がある。

➤ **最大2万人超/日の発熱患者等を想定し「外来医療体制整備計画」を策定**

【想定患者数の算出に用いた値】

- ・新型コロナウイルスは今夏の感染拡大時に最も感染状況が悪化した沖縄県と同規模
(今夏の広島県の約1.5倍)

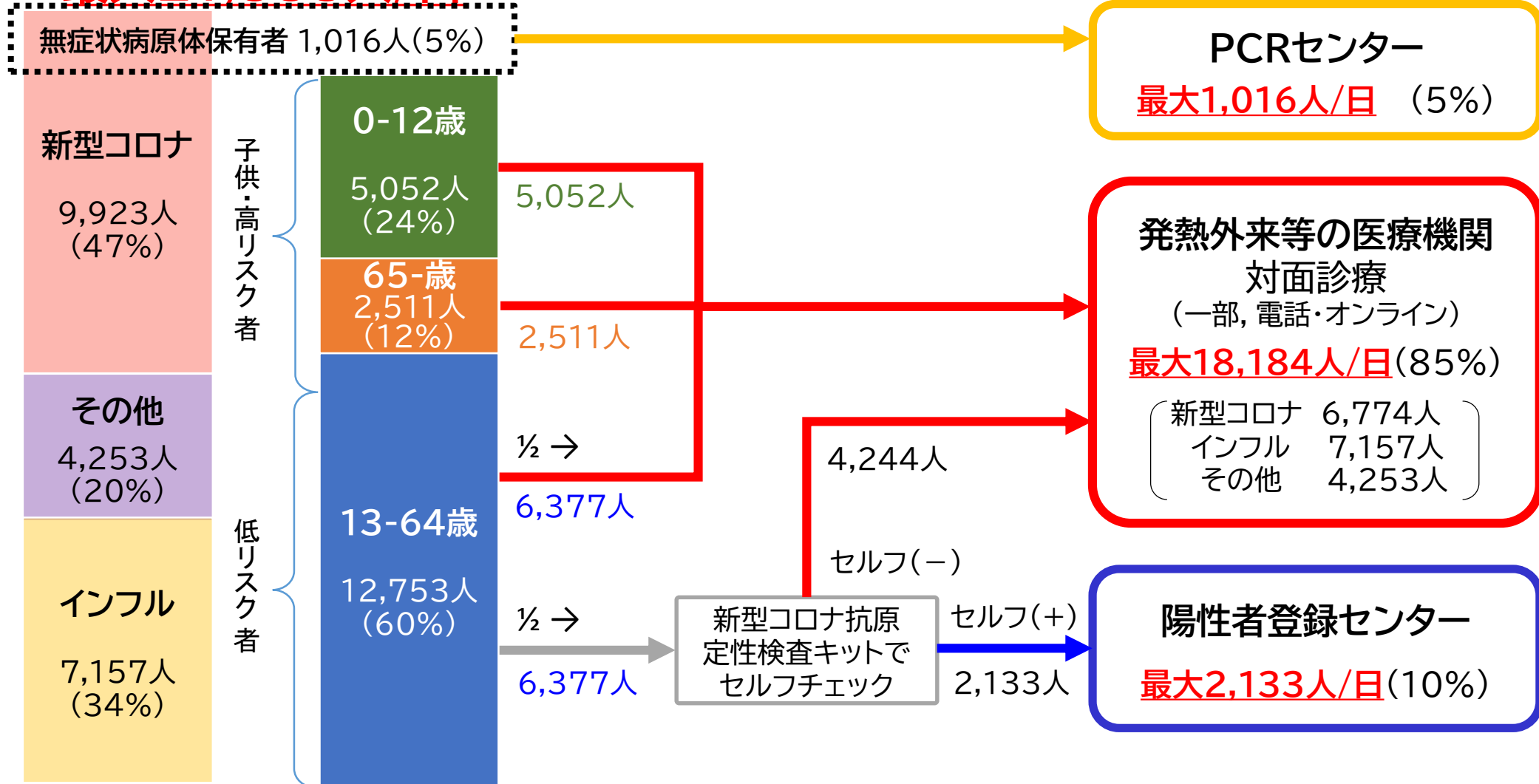
- ・インフルエンザは過去(2013/2014～2019/2020)の最大値だったシーズンと同規模

➤ **多数の発熱患者等に対応し、必要な方に適切な医療を提供するための保健医療体制の強化・重点化に取り組む。**

同時流行下の外来受診等のフロー・患者数の推計(最大時)

発熱患者等

最大21,333人/日



※小数点以下を四捨五入して丸めているため、数値の合計が合わない場合がある。

同時流行下における行動(協力要請・呼びかけ)

発熱等の症状がある場合は,

- ✓ 子ども,ならびに高齢者等重症化リスクの高い方は発熱外来(診療・検査医療機関)を受診
- ✓ それ以外の方は,コロナ抗原定性検査キットでセルフチェック
 - 陽性であれば,陽性者登録センターに登録
 - 陰性であれば,近所のかかりつけ医等を受診

感染の不安がある場合(無症状)は,

- ✓ PCRセンター,登録薬局等での無料検査を利用

発熱外来等の医療機関の対応

- 発熱外来等を受診する方(最大想定18,184人/日)への対応



本県の発熱外来(診療・検査医療機関)の数は、人口当たりでは
全国第4位(1,477機関。R4.12.1現在)と充実

- ✓ 発熱外来で第7波最大時よりも数人程度、多く患者を診ていただく
- ✓ コロナ検査キットのセルフチェックで陰性だった方(4,244人)について、発熱外来以外のかかりつけ医等を含め診ていただく

陽性者登録センターの体制の拡充

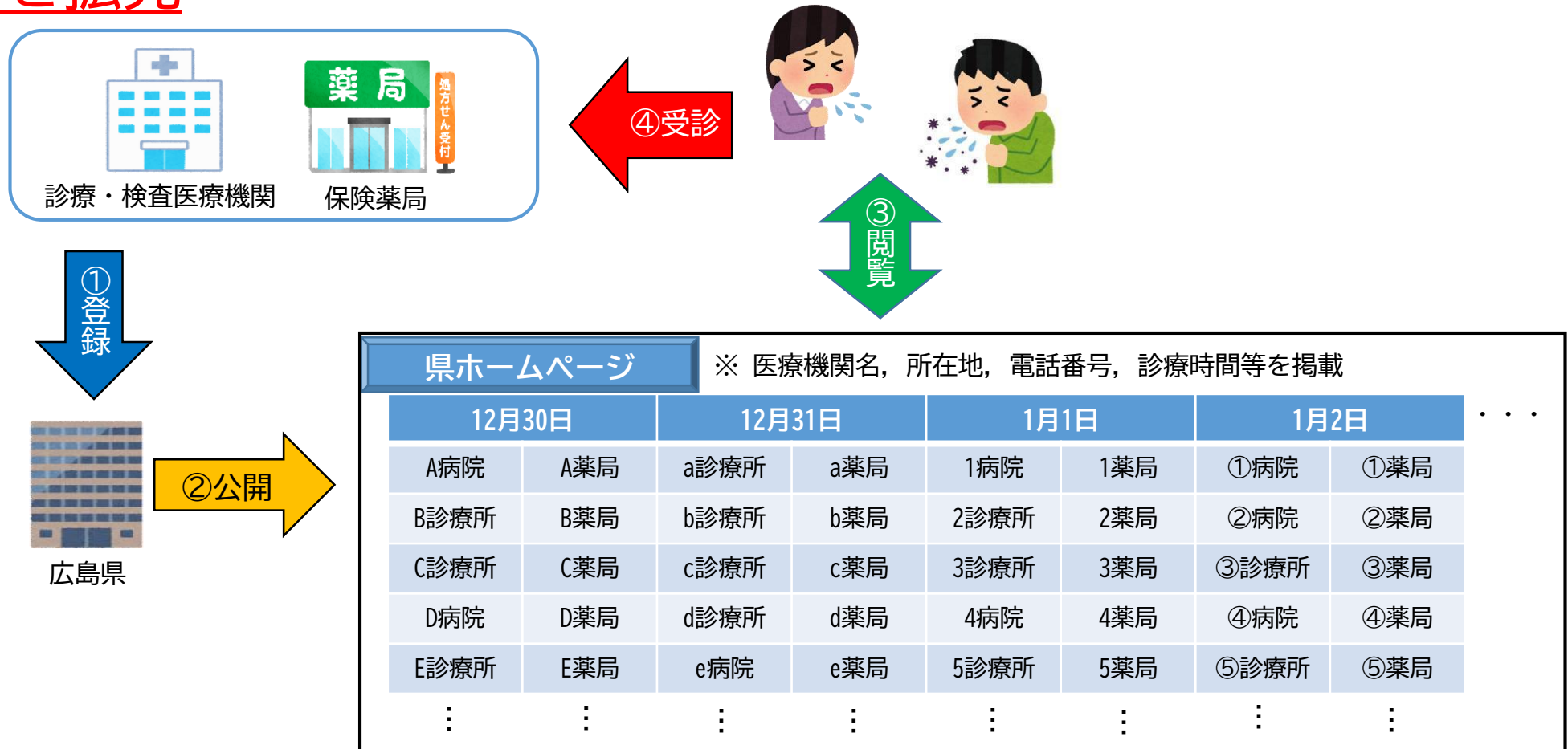
- 陽性者登録センターに登録する方(最大想定2,133人/日)への対応

| 陽性者登録センターにおける登録 | 登録者数 |
|------------------------|--------|
| 陽性者登録センターの登録可能人数(現状) ① | 500人 |
| 陽性者登録センターの登録可能人数(拡充) ② | 2,000人 |
| 今後の登録可能人数(最大)①+② | 2,500人 |

➡ 最大想定登録者数を上回る**2,500人/日の登録を可能に**

年末年始等における診療・検査体制の拡充

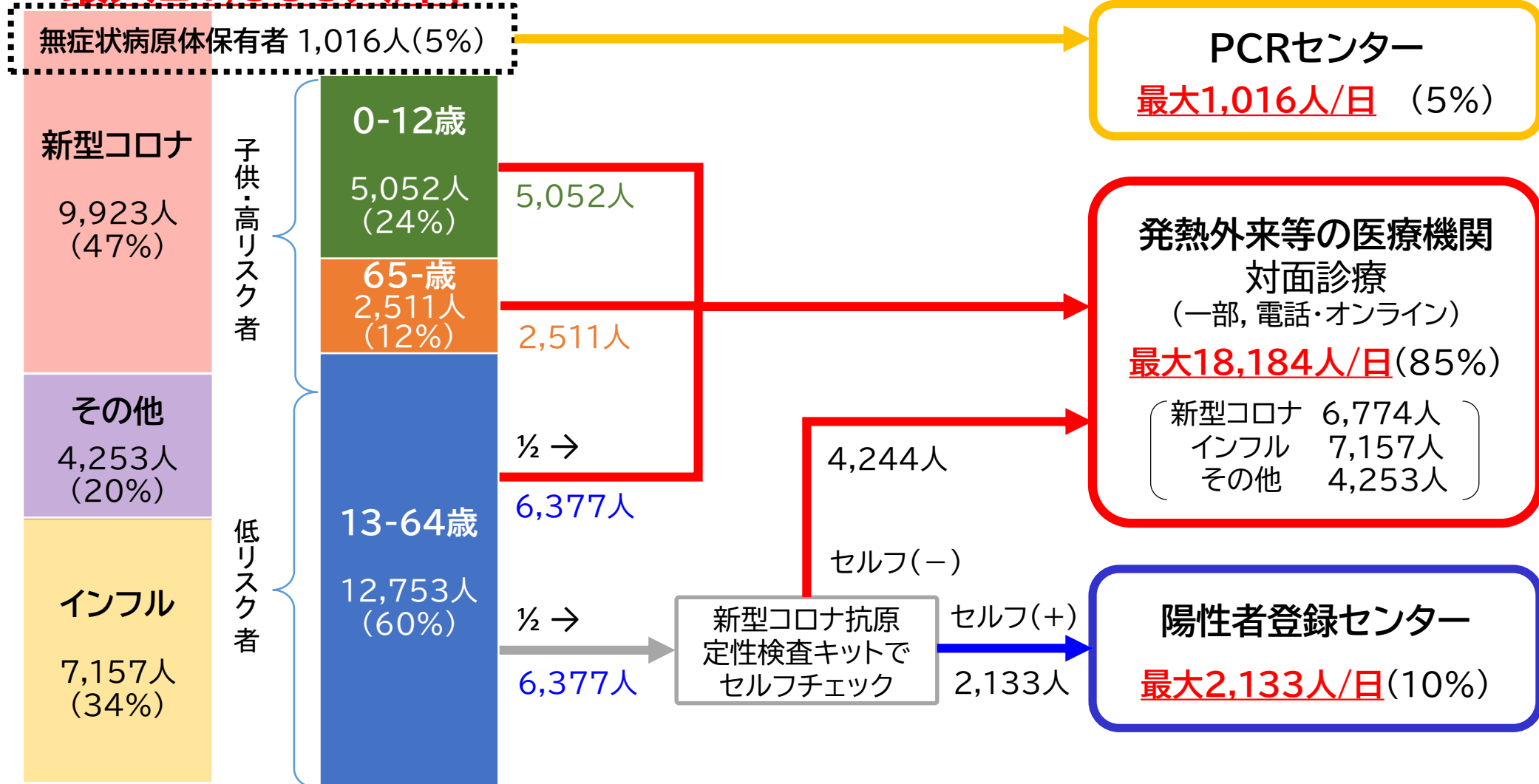
- 年末年始等の連休中は、多くの医療機関の休診が続き、休日当番医だけでは対応できないおそれ
- 診療・検査医療機関，保険薬局の御協力のもと、年末年始等の診療・検査体制を拡充



同時流行下の外来受診等のフロー・患者数の推計(最大時)

発熱患者等

最大21,333人/日



※小数点以下を四捨五入して丸めているため、数値の合計が合わない場合がある。

県民の皆様へのお願い [感染拡大を防ぐ]

◆ 年末年始を楽しく過ごすためにも、

- 今月中のワクチン接種を積極的に検討してください。
- また、急な発熱等にそなえて、「新型コロナウイルス抗原定性検査キット」や「解熱鎮痛薬」を常備してください。
- 引き続き、定期的な換気等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。

この冬は、ワクチン接種・新型コロナウイルス抗原定性検査キット・解熱鎮痛薬の準備を

! 新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザが同時に流行すると、発熱外来がひっ迫する可能性があります。

感染が拡大する前の接種をご検討ください



- ・**新型コロナウイルスの接種**
新型コロナウイルスの早期の接種をお願いします。
- ・**インフルエンザワクチンの接種**
65歳以上の方などの定期接種対象者で、接種を希望される方は早めの接種をお願いします。

発熱などの体調不良時にそなえて、早めに購入しておきましょう



- ・**新型コロナウイルス抗原定性検査キット**
- ・**解熱鎮痛薬**
かかりつけ薬剤師・薬局にお気軽にご相談ください。



あわせて確認しておきましょう

- ・**電話相談窓口などの連絡先**
受診・相談センターなどお住まいの地域の相談窓口、「救急車利用マニュアル」の参照や#7119（救急要請相談）、#8000（こども医療相談）など
- その他、生活必需品なども用意しておきましょう。
（体温計・日持ちする食料（5～7日分）など）

チェック!

国が承認した新型コロナ抗原定性検査キットを選びましょう

「研究用」ではなく国が承認した「医療用」もしくは「一般用」のキットを使用してください。



オミクロン株対応ワクチンの接種対象・時期 [R4.12月現在]

12歳以上^{※1} で、2回目接種は完了していますか？

はい

※1 12歳未満の方はオミクロン株対応ワクチンの対象になりません。

いいえ

前回（2・3・4回目）の従来型ワクチンの接種から
3か月経過後、オミクロン株対応ワクチンを接種^{※2}

従来型ワクチンで
1・2回目接種を完了

※2 mRNAワクチンが接種できない方は、ノババックスワクチンを**1回接種**可能（前回接種から6か月経過後）

○ オミクロン株対応ワクチンは現在 **お持ちの接種券** で **一人1回接種** できます。

※ 接種券を紛失した方は、お住まいの市町で **再発行が可能** です。

○ 1・2回目が未接種の方は **年内に** 従来型ワクチンの接種をご検討ください。

※ 年内に2回目まで接種するには、1回目接種を12月上旬までに行う必要があります。

○ 接種希望日の直前には、希望する会場の予約が埋まっている場合がありますので、**お早目にご予約** ください。

感染拡大や医療のひっ迫を防ぐため、速やかな接種の検討をお願いします